



同窓会報

発行所
 岩ヶ崎高等学校同窓会
 宮城県栗原市栗駒
 中野愛宕下1の3
 TEL (0228) 45-2266
 FAX (0228) 45-2267
 印刷 タカハシ印刷

題字 菅原 久枝 (S30卒)
 写真 佐々木勝行 (S38卒)



今後の高校 改編を危惧



同窓会会長
 葛岡 重利
 (昭41年卒)

同窓会入会式を二月二十七日に行い、一二七名を新会員として迎えました。終了後、出席された東京支部佐々木支部長・佐藤副支部長と東京方面に進学や社会人として生活の場を移される二〇名の新卒者との情報交換の場が持たれました。その後、十八名程がいつでも連絡を取り合えるようになったと伺いました。新卒者に期待を託し、若い世代に将来を繋げようとする新しい取り組みに衷心より敬意を表します。

昨年、宮城県教育委員会は平成二十八年度から創造工学科の募集停止を決めました。統合して間もない鶯沢校舎が三年後に閉科です。甚だ慙愧に堪えません。少子化の進行とともに母校を取り巻く環境が大きく変わってきました。市内四校の現在の募集定員は六〇〇名、創造工学科の募集がなくなると来年度から五六〇名になります。一方、今年市内の小学校に入学した児童は四九一名です。九年後は、市外の高校に出て

行く生徒数を考慮すると、四〇〇名に満たない数になり、さらに市内の高校改編が進むのではないかと危惧しております。我々同窓会としても、母校を取り巻く情勢の変化に敏感に対応できるよう母校との連携を強くすることが益々重要です。

同窓会活動において、若い世代に輪を広げようとする東京支部の取り組みが起爆剤になることを大いにご期待申し上げます。本部においても東京支部との情報を共有しながら若い世代の入会を促す環境づくりに取り組んで参る所存であります。

体育館改築に向けて



学校長
 高橋 義典

本校に赴任して二年目を迎えました。昨年度は同窓会総会をはじめ、各地の会合等で同窓生の皆様に大変お世話になりました。また、本校の教育活動に深いご理解を賜り、ご支援、ご協力をいただきたいと思っております。深く感謝申し上げます。

さて、今春一三三名の新入生を迎え、全校生徒三三七名

で新しい年度がスタートしました。生徒達は今年もそれぞれの目標を持って毎日の授業に、部活動等に熱心に取り組んでいます。今年度は始まったばかりですが、野球部が二十一年ぶりに県大会出場を果たしたことや、支部総体でバレー部が男女ともに、剣道部男子が個人で優勝したことは明るく嬉しいニュースです。

その一方で、昨年、平成二十七年入試を最後に創造工学科の募集を停止し、工業系の機能を迫桜高校に移すという決定を県教委から受けたことについては断腸の思いでの報告であります。今年入学した二九名の生徒を含め、充実した学校生活を送ることができるよう努めると共に、ハード、ソフト両面にわたる配慮をお願いしているところです。

また、ストップしていた岩ヶ崎校舎の体育館改築工事に関しては、来年度の設計、二年後の工事着工を目的に、再度担当部署への事務手続きを進める予定です。同窓生の皆様には、今後とも岩高生のために温かいご支援をお願い申し上げます。結びに、皆様のご健勝と本校同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



チャンスを頂き 変える時は今



東京支部長 佐々木くに子 (昭37年卒)

東京岩高会は葛岡同窓会長様及び母校高橋校長先生方のご理解ご協力を頂き、新しい取り組みの一步を踏み出す事ができました。

二月二十七日、二十六年卒業生一二十七名は葛岡会長の入会歓迎の辞にて同窓会会員となりました。東京支部より佐藤副支部長と列席させて頂き、式典後、関東方面に上京される二〇名の方々と「顔合わせ」の場を設定して頂きました。

卒業式を翌々日に控えている新卒者たちは進路先など自己紹介をされ、私共は「東京で歓迎会を!!」と約束を交わしました。葛岡会長様も同席して下さい、高橋校長先生及び先生方も生徒の後方に一

緒して下さい、同窓会と母校との一体化した格別のご配慮には前に踏みだす勇気を頂きました。

東京岩高会は「歓迎会は四月十八日、八丁堀キャブリス」と決め、二十二名を増えた上京者にメール交信を開始しました。

上京されたばかりの各々は「大学のスケジュールがありすみません」「仕事で残念です」「出席します。ありがとうございます」座居ます」ときちんとした振る舞いの返信を下さり、ハイテク機能を豊かに活用出来る若者たちに感心しました。

四月十八日、出席が叶った五名は宇都宮、小山、土浦など遠路を清々しい顔でやって来ました。役員など十一名を前に、ふる里が同じ、学び舎が同じと時代を超えて会話が弾みました。「将来はふる里などで社会貢献が出来るようになりたい」と話され、「同窓会に出席したいです」とも嬉しい発言に圧倒されました。私たちには新会員達を育てていく役目をご座居ます。エネルギーギッシュでスピーディー、

大志を抱く若者たちはきつとふる里や母校の活性化を図る逸材となると期待し「手を携えるは今」と取り組みます。

十一月二十八日上野公園でお待ちしております。



歓迎会に集まった新会員

自分史と同窓会



仙台支部長 高橋 清志 (昭44年卒)

最近、自分史の自費出版が盛んだと聞きます。

自分史とは、自伝或いは自叙伝が、何らかの意味で成功した個人の生涯の事業・実績を中心とした記録、立志伝であるのに対し、平凡に暮らし

てきた人が自分自身の生涯を書き綴ったものをいうのだそうです。

私も、いたずら心で、仮に自分史を残すとした場合にどれだけ過去に経験したことを覚えていたかを試してみました。だが、時が経つにつれ記憶は薄れ、自分史を残すには程遠いことをあらためて知らされました。

自分史は、当然のことですが、記憶していたことを思い出すことができなくなる「忘却」の前に、とは言え、「忘却」の有無は確かめようもありませんので、思い出したことから整理し、また、過去の経験というのは、自分の意志や事柄の良し悪しに関わりなく、懐かしい人との出会い、偶然に見た景色、テレビから流れる歌謡曲など、ちよつとしたきっかけで突然思い出させられるものだから、メモをとる準備も必要かも知れません。

自分史を残すことを名目にして、過去の経験を思い出すことに努めることも何らかのプラスになるかも知れませんね。

同窓会は、先輩や同期・後輩と出会い、高校時代の様々なことを語り合い、それらにより郷愁に駆られ、過去の経験を思い出させられる場でもあり、様々な意味で大切にしなければならぬと考えます。

さて、仙台支部の今年度の総会ですが十月の開催を予定しております。具体的な日程や場所が決まり次第、ホームページ等で皆さんに開催のご案内をさせていただきますので、ぜひ、多くの同窓生の皆さんがご出席されますようお願い申し上げます。

終わりに、故郷と岩ヶ崎高校の益々のご発展、同窓生の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



校庭の桜

思い出の先生方



私の原点



元岩高教諭
千葉 洋
(昭43〜昭51)

私の教員生活は、公・私立あわせて北から南までの九校四十三年間であった。転勤の度に家族と共に引越しを繰り返していたので大変であった。

岩高当時は家から通勤ができ、すばらしい先輩教師と同僚、懐の深い礼儀正しい、そして清楚で知性あふれる生徒達に恵まれ、今考えても山と川のある、いかにも小説にもでてくるような、何をとても理想的な高校で大変に幸福な毎日であった。

私としては、なりたての未熟者で言動が一致せず、今、思うと恥ずかしいことこの連続で「しっかりしろ」と自分に言い聞かせながら歩いてきたように思う。それにもかかわらず、結果

的に生徒諸君となんらかの形でつながりが持てたのは、まさに居た多くの方々の温かい配慮によるもので、心から感謝している。

そのような生活のなかで私の人生にとっては大切な、あの種の「自信」と「誇り」とこれからの教員生活へのあるべき指針が自然と育まれていった。

いわゆる岩高での生活は私の教員としての原点であり、すべての面において、かけが



思い出の旧校舎

えのない最も鍛えられた時期であった。

何かに向かって強く意識し、のつびきならぬ決断を迫られる時は、決まって生徒諸君の姿が彷彿と湧いてきて、私にゆるぎのない、あるべき姿を示してくれたのも、それを物語っているように思う。

今でも当時の生徒諸君との「つきあい」があり、会合の折には、いそいそとうれしそうな顔をして出かける自分がいる。

現在は、今までの自分とは全く違った分野の木工に勤しみ、トレーやスプーンづくりや、盆栽用のアルミ線を編みあげての「一輪挿し」づくりにも励んでいる。

得難い経験



元岩高教諭
小野寺千代子
(昭51〜昭57)

「あれから四十年!!」時々、TVのお笑いで聴くセリフです。まさにあれから四十年が過ぎてしまいました。家庭科

の教員として「家庭一般」以外の科目も担当できるという希望が叶ったの赴任でした。

初めて担当する科目が急に三つも増えて毎日の教材研究や準備、実習後の後始末が大変でした。その年「食物」の選択者は六十四名と大人数でした。選択「食物」には毎年数名の男子生徒もいて授業そのものは楽しくできました。

「家庭クラブ」という課外活動も初めてで、私自身がどういう組織なのか理解していませんでした。しかし、前任の先生方のご指導が行き届いていて、生徒の家庭クラブ会長と役員や他の生徒達の協力も良く年間行事をこなすことができました。

この家庭クラブ活動に生徒達は積極的・協力的に参加していて、岩高祭のバザーでは大活躍でした。また、研究発表で県の代表になる活躍もあり「家庭クラブ新聞」の発行を始めたりました。

忙しかったけれど、家庭科教員としてその後の教員生活に大いに有難い経験でした。明るく元気な生徒達はHR



昭和 50 年頃の航空写真

での討論会でも真剣に意見を出し合いました。校則がテーマの時、涙を浮かべながら発言する生徒もいて、今でもその時の光景が目には浮かびます。新校舎建設のためプレハブの教室でミシンを使えずその年は手編みでベストを製作しました。私は今でもそれを年に数回は着用しています。新校舎竣工の昭和五十七年三月に転任することになりとても残念でした。

その当時、男女別クラス編成で、家庭科必修も女子だけだったので女子だけの話になってしまいました。男子の皆さんごめんなさい。

終わりに、岩ヶ崎高校の益々のご発展と同窓生皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

思い出そして感謝



元篤工高教諭
大友 信次
(昭47〜昭54)
(平12〜平18)

一度目の勤務で軟式テニス部を担当した。コートづくりからのスタートである。水平を取るのに工夫しながら生徒と汗を流した。フェンスは生徒たちがアングルを切ったり溶接したりの自作であった。さすが工業高校生と感心したものである。遊び程度しか経験のない私は生徒たちに打ち負けるありさまだったが懲りずに相手をしてくれた。おかげで少しは上達した?と思う。合宿は椅子を並べその上に畳を敷いて寝た。蚊との戦いの夜もあったが、夏の暑さの中一緒に汗を流した充実感は今も残っている。

先生方のご指導、ご協力をいただきながら実施した理科実験や、たくさんの議論を経て実施した新しい学習方法等も思い出深い。

二度目の勤務では進路指導を担当した。氷河期さらに超

氷河期とも称された時代である。全職員による企業訪問、面接指導等手立ては尽くしたが大変厳しい状況だった。管内企業のご理解や、生徒の奮闘もありほとんどの生徒は就職できたが、その後どうしているかな、頑張っていてくれればいいがと思う。町でふと出会って元気な様子を見るとほっとする。

部活動は野球部の副顧問である。部員不足の中、歴代監督の粘り強く情熱的な指導と選手の頑張る姿を思い出す。真冬、体育館の空きスペースで三、四人でのキャッチボール、真夏の乾いたグラウンドでの練習。少人数ゆえの大変さもあったが工夫して乗り越えた。試合に勝利したときの湧き立つような喜びや感激は今も覚えている。生徒には大変な財産になったと思う。私も勇気づけられた。

教員生活の半分近くを篤沢工業高校で働いた。ご指導をいただいた先生方、そして出会った生徒に感謝の気持ちでいっぱいである。

思い出す儘に

元篤工高実習教諭
佐藤 吉一
(昭45〜平22)

追のほとり地を選び/堅き心に結ばれし/わが学び舎の庭に見る/栗駒山の崇高さよ踏みゆく道に光あり

で始まる岩ヶ崎高校の校歌は郷土の偉大な詩人白鳥省吾の作詞によるものである。省吾の作詞した校歌は北は秋田県から南は福岡県まで日本全国で二百三十五校を数える。栗原市内では小中高を合わせて三十四校あるが、統廃合によってほとんどの校歌が歌われなくなっている中、岩高の校歌が健在であるのは嬉しい限りである。

省吾は昭和三十一年七月

八月にかけて『河北新報』の夕刊に「校歌をたずねて」を二十九回連載しているが、その四回目に岩ヶ崎高校の事を以下のように書いています。

「昭和二十五年に、岩ヶ崎町に組合の高等学校が計画され、栗駒、鳥矢崎、津久毛、尾松、文字、篤沢、岩ヶ崎の組合で、町の南方の眺望よき広々とした土地に建った。」

校歌制定は昭和二十六年十月、作曲は著名な作曲家信時潔(のぶとききよし)である。省吾作詞、潔作曲になる日本全国の校歌は十二曲あるが省吾の作詞の中では最も多い。

平成二十四年十一月、栗原市からの依頼で「白鳥省吾記念館」にて、駐日ラーシェ・

な方であった。

栗原市が「スエーデン・フエステバルinくりはら」に招待した際、スエーデンに本社のある「サンドビック社」の直轄製造会社である「サンドビック ツーリング サブライヴ ジャパン瀬峰工場」を視察した後の訪問であった。

「サンドビック社」は超硬チップなど金属切削加工ツールで世界トップシェアを誇る会社である。

「篤工」の卒業生が少なからずお世話になっている。有り難いことである。

篤工時代の思い出として、毎年貸し切りバスで国家試験の引率をしたこと、生徒達が県の工業高校の各種大会に入賞したこと、写真部で宮城県代表として高文連の全国大会に連れて行っていただいたこと。また退職時には昔顧問をしていた柔道部員とその仲間達に「定年退職祝い」をしていただいたこと、誠に有難いことである。最後に同窓会の益々の弥栄(いやさか)を祈念致しております。



ヴァリエ・スエーデン大使ご夫妻に「白鳥省吾の事跡について」説明した。(写真) 大使はスエーデンでは著名な俳句研究者で著書も出している。日本語が堪能

近況報告

岩高時代の 気持ちで



岡本 功次
(昭38年 岩高卒)

今回、同窓会報への寄稿を求められた時、会長さんから直接お電話を頂いたり、同級生の佐々木勝行さんにも重い腰を後押しをして頂きました。我々の入学当時、ホームルームで「なぜ岩高に入学したのか」と質問され、「自宅近くの学校を選んだ」と答えたのを覚えています。それほど私にとって岩高は身近な学校で、岩小、岩中、岩高と何の考えもなく、最高の教育を受けることができました。このことは、その後の私の進路にかなり影響を与えています。三年生の夏、日曜日の英語の補講を受けていた時のことです。テキストの和訳を当てられました。先生は「下の説

明文を読みなさい」と言うのですが、説明文の漢字の読み方が分かりません。「際立たせる・・・」の読み方が分からず、次の受講者が正しく答えたのを聞き、国語も大切だなと実感しました。

高校卒業後は、無線通信の分野に進み、貨物船の船舶通信士として、海外の各地を巡り、その後は警察通信に職を置き、定年まで過ごしました。定年後は、古川免許センターで、更新時の講習を担当しました。

その後、義兄が経営していた「グループホーム梅ヶ丘の里」を手伝っていたところ、義兄が亡くなった為、私が責任者として再出発することになりました。昨年はケアマネジャーの資格も取得しました。

介護の仕事では、「いつ自分が介護される立場になるか・・・」、そんな考えを持ちながら日々仕事を続けています。私の風貌は勿論、当時と変わりましたが、気持ちだけは、岩高時代のままで毎日頑張っております。

千葉洋組



菱沼 修
(旧姓菅原)
(昭50年岩高卒)

私は尾松で生を受け、昭和五十年に高校を卒業後、大学は盛岡、就職先が東京、在京中に岩ヶ崎の呉服屋さんの紹介で婿養子として結婚し、その後六年程東京で暮らし、平成三年の暮れに家族四人で岩出山に帰ってきました。現在二代目として妻と共に、従業員二十二名の「LPガス容器の検査会社」を経営しております。宮城県内全域と、北は弘前・八戸から南は南相馬

・会津と秋田県以外の東北五県のお客様から検査容器をお預かりし再検査後納品という仕事を行っております。内需向けの経営者共通の悩みだと思いますが、少子高齢化で人口が減少し、それに伴う過疎化による消費者の減少を今後の経営の中で如何に切り抜けて行くかが最大の悩みです。さて、昭和五十年卒の二年三年時のクラス編成は一・三組が男子、二・四組が女子で五組が男女共学でした。私は五組で、当時の担任の名前そのままに「千葉洋組」と呼ぶくらい担任を愛してやまない、いや、担任の千葉洋先生が我々教え子を愛してやまない、

そんなクラスのまま現在も同級会を開催し続けています。代表幹事は女子の祐子さんは不動ですが、男子は諸事情で亮君やら私ができなくなつて、現在は東京の俊雄君が文明の利器を駆使して、遠距離を物ともせず代表幹事としてがんばっております。

来年開催予定の「還暦の会」は、卒業後同級会に一度も参加できないみなさんにも、是非会いたいという千葉洋先生の気持ちそのままに、多くのみなさんが出席できるようにアンケートを取る等準備が進められていて、大いに楽しみにしているところです。終わりに、人生のすばらしい出会いを与えてくれた岩ヶ崎高校に感謝するとともに、母校の更なる発展と、同窓生の皆様方並びに関係各位のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



栗駒登山へ出発



私も息子も



阿部 奈美
(旧姓 佐藤)
(平4年岩高卒)

私は、平成元年四月に岩ヶ崎高等学校に入学しました。

一組から三組が男女一組のクラスで、なぜか四組だけが通称「女クラ」と呼ばれた女子クラスでした。女子が多いからか、学校全体を通して明るい笑い声が響いていました。

部活動は、ソフトボール部に所属し、ピッチャーを務めていました。太陽の下、真っ黒に日焼けして、砂埃と汗にまみれ、日が暮れるまでグラウンドで投げっていました。家に帰ると、井めしは当たり前で、なんともたくましい女子高生だったと思います。本当に楽しい時間は、あつと言う間に過ぎてしまいました。卒業後は、専門学校に進学し、就職結婚、出産、育児と、ドタバタ劇の二十四年間でした。昨年四月に、息子が岩高に入学し、久しぶりに入った校舎は、昔とあまり変わりなく、

懐かしさと安心感のようなのを感じた事を覚えています。

今、改めて「岩高の良さ」

高校生活を思い出し、考えてみると、友達関係はもちろんですが、担任の先生、教科の先生、部活の顧問の先生と、どの先生方とも信頼感という絆があつたように思います。

その証明として、勉強に苦手意識のある私が毎日楽しく通い、無事卒業できたのですから。良い友達に恵まれ、忍耐強い先生方が指導して下さいのおかげだと思つています。

息子は、井めしこそ食べませんが、勉強は私と違つて意欲的で、四月から早朝学習塾「愛宕塾」で勉強する為に早起して頑張つています。そんな息子に、今、私が出来る事は、美味しいお弁当を作つてあげる事くらいですが、私同様、良い友達と先生方に支えられ、楽しく充実した毎日

を過ごしています。息子にとつても「尚志育英」の精神、岩高生としての三年間は、心の奥にしっかりと残るものと信じています。

中高一貫校も 評議員のテーマ



三塚 東
(昭48年
鶯工高卒)

私は、昭和四十八年三月に鶯沢工業高校の機械科を卒業しました。その縁があつてか、母校の学校評議員に委嘱され、現在では岩ヶ崎高校の学校評議員を任されています。

評議員会や岩高祭などで学校を訪ねる機会が多く、岩高生の礼儀の正しさに感心しています。このまま地元に住み続け少子化傾向の歯止めとなり、栗原市の将来を担つてほしいといつも思っています。

少子化の中、県の教育委員会では、平成二十二年度から平成三十二年度までの十年間にわたる「新県立高校将来構想」を策定し、平成二十五年二月には第二次の実施計画が作成されています。再編の基本的な考え方は「地区の中学校卒業生数の減少の見通しに基づき学級減を行うとともに、地域との関わり、機会均等へ

の配慮や学校活力を維持し得る規模、市立・私立高校との協調した取組などの視点に配慮しながら、地域の教育的ニーズを十分に踏まえ計画的に学校再編を進めていきます。また生徒数が一定の基準に満たない学校については、原則的に統廃合などの対応を進めます。」としています。栗原市の場合中学校の卒業者は、平成二十六年から平成三十二年度までに九十六人が減少するので、学級数を三学級減らす見込みであるとしています。

現在、栗原市では自動車関連産業などの企業誘致や、小・中学生の学力レベルアップを目指した「学府くりはら」など、七つの成長戦略を掲げ若い人達が定住し、元気な栗原づくりを積極的に進めています。「地域づくりは人づくりから」はじめなければならぬと私は思います。県の教育委員会が作成した県立高校の将来構想を真摯に受け止めながらも、岩高の普通科と創造工学科の生徒が夢と志を持って進学や就職ができる地域

の配慮や学校活力を維持し得る規模、市立・私立高校との協調した取組などの視点に配慮しながら、地域の教育的ニーズを十分に踏まえ計画的に学校再編を進めていきます。また生徒数が一定の基準に満たない学校については、原則的に統廃合などの対応を進めます。」としています。栗原市の場合中学校の卒業者は、平成二十六年から平成三十二年度までに九十六人が減少するので、学級数を三学級減らす見込みであるとしています。



昭和41年の大運動会

鶯工生活を振り返って



伊藤 美恵
(旧姓 後藤)
(昭53年鶯工高卒)

藍の里、甚句で知られている文字へ嫁いで三十三年になろうとしています。生まれ育った細倉より長くなってしまいました。

私が鶯沢工業高校に入学したのは、昭和五十年四月で、栗原電鉄も未だ現役で走っていて、一駅の駒場まで電車通学をしていました。電子科は、学内教科、実習があり、みんなに付いていくのに必死でした。実習後のレポート提出は、先生達との戦いでもありました。質問に答えられず、何度も突き返されがっかりしましたが、受け取ってもらった時はとても嬉しくて、クラスメイトと喜んだものです。在学中の試練でした。特に印象的なのは、二年生の時に行った修学旅行です。当時は北海道と京都の選択制で、私は京都を選びました。自主研修では、嵯峨野・嵐山エリアを友人達

と地図を広げながら歩き、竹林や寺院を巡ったのが良い思い出です。また、放課後の部活が盛んで、運動部、文化部いろいろ選べ、私は太つていたので(今でも…笑)運動する事が苦手でした。それでも運動部の役に立ちたいと思い、男子テニス、女子テニス共通のマナージャーを引き受け、ボール拾いやスコア付け、その他雑用をして何とか置いてもらっていました。顧問の先生も若かったたので、毎日練習に参加して熱心に指導していただきました。みんなが普段一生懸命練習し、試合に勝った時は私も選手と同じくらい嬉しかったのを今でも覚えています。

あれから四十年経ちましたが、高校時代の事は鮮明に記憶に残っています。今度みんなと会って盛り上がりたと思います。そしてその時だけは、高校時代の気分に戻って昔話をしたいなと・・・



鶯工の実習風景



地区総体優勝おめでとうございます



◀ 剣道部男子個人



▶ バレーボール部女子



▶ バレーボール部男子

同窓会
総会のご案内

平成二十七年同窓会総会が次の日程で開催されます。

日時

平成二十七年

八月一日(土)

午後三時より

会場

ベルデイ栗駒

当番幹事

昭和51・61年

平成8・18年卒

代表

渡辺吉晃・三塚弘恵

◎問い合わせは

岩ヶ崎高校同窓会事務局へ

電話

022814512266

懇親会費 二千元

※参加については、当番学年で参加券を扱っております。尚、当日の参加も歓迎いたします。

過去5年間の進路状況(平成27年3月31日現在)

Table with columns for years (平22 to 平26) and rows for various universities (e.g., 北海道教育函館, 弘前大, etc.).

Table with columns for years (平22 to 平26) and rows for private universities (e.g., 東北学院大, 宮城学院女子大, etc.).

Table for public universities (国公立短大等) with columns for years and rows for institutions like 東北職業能力開発大学校.

Table for private short-term universities (私立短大) with columns for years and rows for institutions like 聖和学園短大.

Table for high schools (高看) with columns for years and rows for various medical and nursing schools.

Summary table for high schools (高看除) with columns for years and rows for '専各' and '専門・各種学校(高看除)'.

Table for public employees (公務員) with columns for years and rows for various roles like 国家三種(税務), 宮城県職員, etc.

Summary table for private companies (民間) with columns for years and rows for '民間' and '民間企業'.

(平23・24・25・26の就職は鶴沢校舎含)



進路指導部長 高橋 昌枝

本校は、平成二十四年度までの五年間を進学拠点校学力

向上事業の指定校として、さらに一昨年度からは進学重点校学力向上事業の指定校として、教職員一丸となつて学力向上と進路達成を目指して取り組んできました。本校の職員室前の廊下には自学自習用の長机や参考書があり、早朝

は高看希望者、公務員希望者の表の通りになります。昨年度は高看希望者、公務員希望者

が例年以上に多く、就職進学の道を選ぶ卒業生もおり、進路先が多岐に渡っています。昨年同様、最後まで粘りに粘り、試験に合格するなど、岩高生の底力を見せつけられました。国公立大学に関しては、受験

者と合格者の増加が大きな課題と言えます。今後引き続き、進路情報の収集・共有・提供・発信を行い、一人ひとりの進路達成に向けて一丸となつて取り組んでいきたいと思ひます。



▲愛宕塾で学ぶ塾生



▲愛宕塾開塾式

岩高への思い



普通科三年
石川 貴大
生徒会長

私がこの岩ヶ崎高校へ入学して二年が経ち、残り一年の高校生活となりました。高校生活というのは本当にあつという間で、あと一年しかないと思うと、とても寂しい気持ちになります。

この二年間を振り返ると、良き仲間にも恵まれ充実した高校生活を送ることができたと思います。中でも高校生活最大のイベントである修学旅行は本当に良い思い出になりました。特に班別研修では皆で京の町を見て歩きその土地ならではの文化を感じることができたと思います。修学旅行以外にも球技大会、文化祭といった行事等でクラス皆で団結し、盛り上がったことが何より良かったと思います。私は二年生の後期から岩ヶ崎校舎の生徒会長という役になりました。生徒会執行部と全校生徒が一丸となりこの岩

高がより良い学校になるよう日々の活動に励んでいます。今年度は特にあいさつや携帯電話の使い方などについての呼びかけを例年より多くしています。戸惑うことも多いですが、残りの生徒会活動も積極的に行っていきたいと思います。

三年生はいよいよこれから受験になります。全員が第一志望校に合格できるようにしっかりと頑張っていきたいと思います。そして、後輩に良き伝統を引き継げるよう頑張ります。

高校生活



創造工学科三年
千葉 楓子
生徒会長

私が高校に入学してから二年があつという間に過ぎ、卒業まで残り一年もありません。

この二年間を振り返ると実に充実した学校生活を送ることができたと思います。私は様々なことに挑戦してきました。その度に友達や先生方だけでなくさんの迷惑をかけてしま

いました。例えば、昨年の秋の生徒会役員選挙では、みんなの前に立ったり、話したりするのが苦手な私が会長に立候補してもいいのか、会長らしい言葉を言えない私でもいいのかと皆さんの不安でいっぱいでした。皆さんの人に相談し、皆さんの人に励ましてもらい自信をもつて会長に立候補することができました。残りわずかですが、みんなの期待に応えられるように頑張りたいです。

部活動では、バドミントン部の副部長をやっています。鶯沢校舎には三年生が一人しかいないので、岩ヶ崎校舎の三年生がくるまでは私が部員をまとめています。昨年度は少ない人数で寂しく活動をしていました。しかし、今年是一年生が多く入部し今では毎日体育館がにぎやかになりました。

高校生として過ごせる時間は残りわずかですが行事や普段の生活を大切に、クラスのみならず一つでも多く良い思い出を作りたいと思います。

視野を世界に向けて



普通科三年
千葉穂乃香

今回、平成二十九年度全国高校総合体育大会の大会愛称部門で最優秀賞をいただき、山形県の表彰式にて表彰を受けました。最初は驚きで事態がよく分からず、ようやく実感が湧いたのは山形に着いてからでした。引率してください

った横尾先生と、短時間で仕上げた作品なのにこのような大きなことになるとは、と驚きを越えた喜びで帰路は笑ってばかりいました。南東北総体を飾る代名詞である大会愛称に私のささやかなものが選ばれたこと、大変恐縮に感じています。そして、このような形で高校生の全国大会の運営に携わることが出来たことをとても光榮に思います。作品は『はばたけ世界へ 南東北総体 2017』。二〇二〇年に東京オリンピックを控えたこの総体。この総体

に出場した選手の中から東京オリンピックをはじめ、世界で活躍する選手が数多く出て来てほしいという思いを込めて、この愛称にしました。最後になりますが、この大会愛称に込めた私の思いが将来実現されることを願いながら、私自身も自分の理想に少しでも近付けるように五月二十二〜二十五の県総体で頑張りたいと思います。





平成26年度 宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会会計決算書

平成27年3月31日現在

○ 収入合計 1,676,204 円
○ 支出合計 1,489,784 円
差引残高 186,420 円 (次年度へ繰越)



1. 収入の部

Table with 3 columns: 項目, 決算額, 摘要. Rows include 1 入会金, 2 協力金, 3 前年度繰越金, 4 雑収入, and 合計.

卒業年度別協力金の協力者内訳(一人2,000円)

Table with 6 columns: S18-S43, H01-H06, and 合計. Lists names and counts for each graduation year.

2. 支出の部

Table with 3 columns: 項目, 決算額, 摘要. Rows include 1 卒業記念品, 2 支部助成費, 3 旅費, 4 本部総会費, 5 会報印刷費, 6 入会式費, 7 事務費, 8 役員会費, 9 慶弔費, 10 積立金, 11 産業教育振興会会費, 12 予備費, and 合計.

平成26年度末積立金の残高は2,499,425円となっております。(2,000円以上協力戴いた方もおります)

お願い 同窓会の運営資金が逼迫しています。円滑な運営を図るためにも、皆様からの協力金をお願いします。



雨天練習場

御礼申し上げます。同窓会も驚工高と合併し三年目を迎えます。和やかな雰囲気と、厚い絆で本会

同窓会は新同窓生の入会金と、皆様方の協力金を財源として運営されております。本会の主旨をご理解頂き、協力金を賜りました皆様方に厚く感謝と御礼を申し上げます。御陰様をもちまして、昨年は在校生のスポーツ振興のため雨天練習場(ビニールハウス約200m)を施設整備支援事業として実施することができました。在校生も良く活用しており今後の活躍が期待されます。これも一重に皆様方のご芳志の積み重ねが有つてのことと重ねて深く御礼申し上げます。

ご理解とご協力に感謝
同窓会副会長 後藤 家光 (昭46年卒)

新年度が始まるとすぐに、編集委員会がスタートします。編集委員の記憶と人脈をフル活用して寄稿依頼者を探し出しますが、卒業後半世紀も過ぎた小生などは、身の回りに知り得る同窓生や旧職員が少なくなります。そんな中、同窓生で旧職員でもあった千葉紀雄先生(編集委員)の人脈が大活躍します。長い間会報編集に携わって頂いている事に敬服いたします。さらに、突然の依頼にもかかわらず快く寄稿いただいた旧職員の先生方や、同窓生の皆さんに心から感謝申し上げます。すでに、次の発行に向けて寄稿依頼者の発掘をスタートしている編集委員もおりますので、その折には、話題提供をよろしくお願い申し上げます。集後記といたします。(佐々木)

編集後記
の運営が順調に運営されていると感じております。母校の更なる発展を願いより一層のご支援をお願い申し上げます。